

インフォシス Finacle、独立系研究グループにより、クラス最高の大手銀行向けソリューションと評価される

バンガロール（2014年1月21日）：CEB TowerGroup は、同社の報告書「大手銀行市場向けコアバンキングシステム」の中で、インフォシス Finacle をクラス最高のプロバイダーとして評価しました。この報告書では、顧客中心性、商品管理、運用上の柔軟性、エンタープライズ・サポートの4つのカテゴリーの中の23の主要パラメータについて世界的規模のベンダー14社を評価しています。Finacle は、商品管理カテゴリーおよび運用上の柔軟性カテゴリーでクラス最高のプロバイダーとして評価されました。同報告書は、Finacle の設定の容易さと充実したユーザー・インターフェースに加え、そのアーキテクチャの堅牢性と実証済みの拡張性の観点から、Finacle は非常に優れたコアバンキング製品の中でも注目すべきソリューションであると指摘しています。

ハイライト

- 銀行が革新的な金融商品を構築・管理する上で重要となる商品管理機能において、Finacle は高く評価されました。
- 報告書では、Finacle の運用上の柔軟性、特にそのローカライズ機能が認められました。この機能により、銀行は地元や地域ごとの規制要件や業務要件に合わせて容易に商品を構成することが可能です。
- Finacle は、銀行による業務プロセスの容易な設計および構成を可能にする能力においても評価されました。

コメント

インフォシス Finacle、Finacle 製品戦略事業部門 バイス プレジデント兼ヘッド Rajashekhara V. Maiya

「変化の激しい環境とますます高度化する顧客要求により、銀行はビジネス・モデルの再構築を迫られています。しかし、ほとんどの大手銀行はレガシー・テクノロジーによる制約を受けており、高度な複雑性と高額な費用の理由から中核銀行業務の近代化に着手することに躊躇しています。コンポーネント化された構造を持つ Finacle は、大手銀行の変革行程を簡素化し、競争優位性を生み出します。」

CEB TowerGroup シニア リサーチ ディレクター Robert Hunt 氏

「現代のコア・バンキング・システムは、戦略や商品を開発する基盤として柔軟かつ設定可能なプラットフォームを提供することにより、適応性と俊敏性を可能にします。商品管理と運用上の柔軟性の2つのカテゴリーで「クラス最高」と評価され、残りのカテゴリーでも高い評価を得たインフォシス Finacle は、今回の報告書において強力な性能のコアソリューションとなりました。」

テクノロジー・アセスメント免責条項

CEB は、CEB TowerGroup の刊行物に記載されたベンダー、製品またはサービスを推薦するものではなく、テクノロジーの利用者に対して「最高クラス」の格付けを得たベンダーのみを選択するよう助言するものでもありません。また、CEB TowerGroup のリサーチ刊行物は CEB TowerGroup のアナリストの見解を掲載したものであり、事実を述べたものではありません。CEB はこのリサーチに関し、明示または暗示を問わず、商品性または特定目的に対する適合性の保証を含め、一切の保証責任を負いません。

当社について

インフォシスはビジネス・コンサルティング、テクノロジー・ソリューション、アウトソーシング・ソリューションのグローバル・リーダーです。当社は 30 か国以上の国々のお客様が最新のビジネス・トレンドよりも一歩先を進み、競合他社をしのご活躍ができるように支援を提供します。また、戦略的インサイトと卓越した実行力を融合させた革新的なソリューションを共同創造することで、お客様が移り変わりの激しい世界に対応し、成長できるようにサポートします。

www.infosys.com を訪れ、年商 74 億ドル、従業員数 15 万 8 千人以上のインフォシス (NYSE: INFY) が今日どのように未来企業を構築しているかお確かめください。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益や外国為替相場の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2012 年会計年度（2013 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）と 2013 年第 2 四半期（2013 年 7 月－9 月期）（Form 6-K）を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、法律により義務付けられている場合を除き、当社により随時発表された将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

連絡先

東京オフィス 安藤 jo_ando@infosys.com